

第2学年の実践（国語）読書指導

- 1 単元名 気持ちを音読であらわそう — きいて きいて グツときたところ —
教材名 「ニャーゴ」 東京書籍2年

2 単元のねらい

○人物の様子を音読で表現することに興味をもち、いろいろな物語を読もうとしている。

【国語への関心・意欲・態度】

○人物の行動や気持ちを具体的に想像し、想像したことを音読で表現することができる。

【読むこと】

○「誰が」「どうした」に気を付けて、文章を読むことができる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

3 読書指導の観点（布勢小学校 令和元年度 読書指導体系表より）

○描かれた人物の行動や気持ちを想像する。（読解力）

○集団の中での話し合いによって、個人の読みを深化させる。（集団読書）

4 単元設定の理由

（1）単元について

本単元の重点指導事項は、現行の学習指導要領におけるC読むこと（1）ウ「場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。」、C読むこと（1）ア「語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。」である。本単元では、物語の展開に即して場面を分け、人物の行動や様子を豊かに想像しながら読み取る能力を育てることをねらいとし、人物の様子を思い浮かべて音読で表現する言語活動を設定している。音読で表現するという活動を通して、人物の行動や様子を詳しく想像し、その時の人物の気持ちを考えさせたい。

本教材では、「食う→食われる」というねことねずみの関係が、物語の中で変わっていく。また、会話文や心内語が多く、音声で人物の気持ちを読み取ったり、音読で表現したりすることにも適している。「時」や「場所」による場面の変化により、場面のまとまりもとらえやすいので、場面ごとに人物の行動や様子を読み取り、想像を広げて読む力を付けるのに適した教材であるといえる。

教材文で学習した後、並行読書で読んだ本の中から自分のお気に入りの物語を選び、グツときたところを音読で表現し合う活動を設定する。グツときたところとは、おもしろかった場面、感動した場面等、心が動いた場面ととらえる。いろいろな物語にふれることで、教材文で学んだことを生かし、登場人物の行動や会話を中心に様子を思い浮かべながら楽しんで読むことができるようになってほしいと考えた。

物語をじっくり読むと、共感したり、反発したり、疑問に思ったりしながらお話の世界に浸ることができる。グループの友達と一緒に何度も読み合ったり、話し合ったりすることを大切に、グツときたところを見付けさせたい。グツときたところを音読で表現させることにより、さらに興味関心が高まり、楽しく意欲的にお話の世界を読み広げていくことができると思われる。

（2）児童について（略）

(3) 指導にあたって

単元の導入の工夫

一次では、指導者が行う音読（グッときたところ）のモデルを見て単元のゴールのイメージをつかむとともに、物語を楽しみ、読書への意欲がもてる導入とする。そして、お気に入りの物語の「グッときたところ」を全校のみんなに音読でしようかいしよう」という学習のめあてをつかませる。集会で全校のみんなに伝えるという目的意識をもたせることで、継続した学習意欲に結び付くと思われる。

主体的に学ぶための手立て（一人読み）

二次では、本教材「ニャーゴ」を丁寧に読み取り、音読で表現する活動を行う。場面ごとに読み取りを行うが、まず、一人一人の児童が自分なりに考え、満足感がもてるよう「一人読み」を取り入れる。本単元での「一人読み」とは、教材文とおしゃべりを楽しむつもりで、教材文の横に思ったことを書き込む活動ととらえる。分からない言葉や不思議に思ったこと等をもう一度読み直して読み取ったり、自分で想像したりすることは、自分なりの考えをもつことにつながるであろう。「一人読み」でわかったことをグループでの話し合いに生かすことができるので、すべての児童が主体的に学習に関われると考える。

想像力を広げるための支援（グループでの活動）

「一人読み」の後には、グループで話し合い、物語文の内容を理解し、登場人物の様子や気持ちを音読で表す活動に移る。グループ内で意見を出し合うことは、他者の思いを知り、考えが深まると考える。また、読み取りが苦手な児童も教えてもらったり、一緒に読んで考えたりすることで、楽しみながら取り組むことができると考えた。

グループでは、登場人物の行動や会話文から、間の取り方や読む速さ、声のトーンなど、登場人物の気持ちを考えて音読に表すことができるよう話し合いをもつ。さまざまな意見を出し、試行錯誤することにより、自分が想像を膨らませた人物の様子や気持ちがより伝わるような表現の仕方を見付けることができると考える。

読書活動へ広げる手立ての工夫

本単元に入る1ヶ月くらい前に司書教諭がブックトークを行い、並行読書ができる環境を整備する。担任は、ブックトーク後の児童の様子を観察し、一人で読むことが難しい児童には一緒に読むようにしたり、手に取りにくい本は学級全体へ読み聞かせをしたりし、三次の活動にスムーズに入ることができるようにしておく。

三次では、並行読書で読んでいた本の中からグループで1冊の本を選び、グッときたところを音読で表現する活動を取り入れる。いろいろな本を友達と一緒に読むことで楽しく読書ができると考えた。また、他のグループの音読を聞くことで、「楽しいお話がたくさんある。読んでみたい。」という今後の一人一人の読書活動へとつながっていくと考える。

選書の工夫

ブックトークで紹介する本は絵本ではなく、幼年文学の本をそろえた。絵が物語を語り、ページをめくることによって展開する絵本は、本学級の児童にも人気であり、読み聞かせを聞くこと、自分で読むことともに大好きである。しかし、2年生の現段階において、文字や文章から内容を読み取る縦書きの幼年文学の本をあえて用意したことは、友達と一緒に楽しく読むことで絵本から読み物の読書への移行のきっかけになってほしいと考えたからである。

本学級の児童の実態から本単元で紹介する幼年文学の本の選書の観点は以下の通りである。

- ①時間の流れに沿った展開で、ストーリーを把握しやすい。
- ②登場人物の行動や気持ちが分かりやすく、親近感がもてる。

③内容に明るさやユーモアがある。

これらの観点から担任、司書教諭、学校司書が協同し、選書を行う（ブックリスト参照）。紹介した本は、複本を用意して学級におき、いつでも手に取れるようにしておく。

5 単元の評価規準

| 国語への関心・意欲・態度 | 読む能力 | 言語についての知識・理解・技能 |
|--|---|-----------------------------|
| ・人物の様子を音読で表現することに興味をもち、いろいろな物語を読もうとしている。 | ・場面の様子について、人物の行動を中心に想像を広げながら読んでいる。 ・文章の中の言葉をもとに、思い浮かべた人物の様子を音読で表現している。 | ・「誰が」「どうした」に気を付けて、文章を読んでいる。 |

6 単元の指導計画と評価計画（全14時間）

| 時間 | 学習活動 | 教師の支援 (●担任 ◆司書教諭 ◇学校司書) | ☆評価規準及び 評価方法 |
|------------------------------|--|--|---|
| 国語 「本はともだち」 1時間 9月末 | ○幼年文学の本のブックトークを聞く。6冊程度 (並行読書) | ●◆◇幼年文学の本を紹介し、読んでみようという意欲付けを行う。 ●◆ブックトーク後、一人一人の児童がどんな本を好んで読んでいるのか把握するため、児童には一言感想を残しておく読書記録を書くようにさせる。 ●ブックトーク後の児童の読書の様子を観察し、自分で読むことが難しい児童には一緒に読んだり、手に取りにくい本は学級全体へ読み聞かせをしたりするなど、いろいろな本が読めるようにする。 | |
| 時間 | 学習活動 | 教師の支援 (●担任 ◆司書教諭 ◇学校司書) | ☆評価規準及び 評価方法 |
| 一次 1時間 | ○学習の見通しを立てる。 ・教師による音読（グツときたところ）のモデルを聞いて、物語への興味をもち。 ・あらすじ、登場人物の紹介、グツときたところの音読を聞いて、これからの学習の見通しをもち。 | ●◆◇単元の見通しをもつために、担任と司書教諭が単元のゴールである音読（グツときたところ）のモデルを示す。 ※『番ねずみヤカちゃん 福音館書店』 | ☆物語に興味関心をもち、これからの学習に意欲的に取り組もうとしている。 【関】（発言・行動観察） |
| グツときたところを 全校のみんなに音読でしようかいしよう | | | |

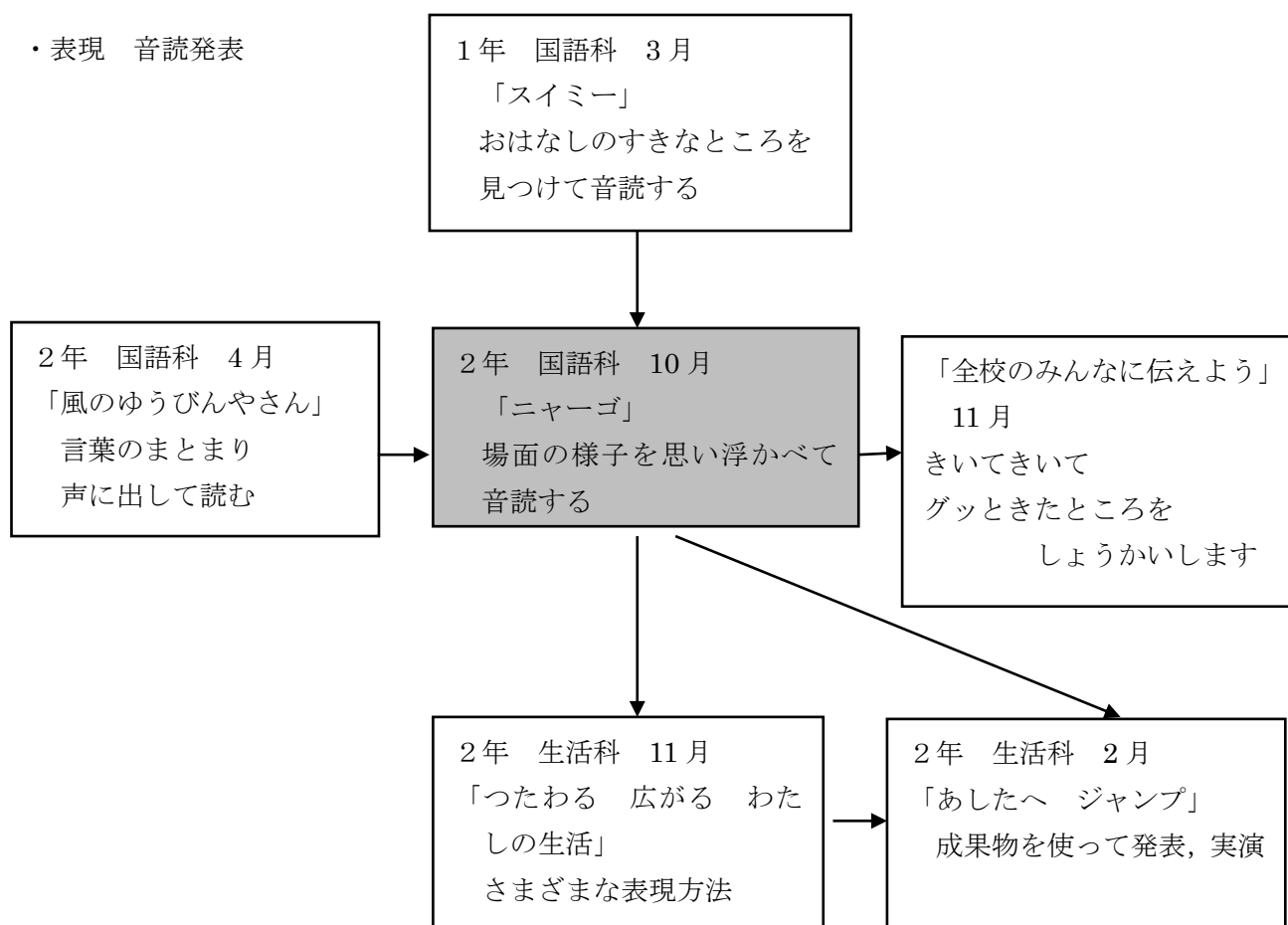
| | | | |
|-------------------|--|--|--|
| <p>二次 8時間</p> | <p>○教材文「ニャーゴ」の大まかなあらすじをつかむ。 ・アニメーション「バラバラ物語」で物語の展開を確認する。</p> | <p>●挿絵を並べ替えさせることで、人物の様子や場面の転換の順序に意識を向けさせ、物語の大体のあらすじをとらえさせる。</p> | <p>☆物語のあらすじをまとめることができる。【読】(行動観察・ワークシート)</p> |
| | <p>○挿絵ごとにだれが何をしたところかを短くまとめ、あらすじをまとめる。</p> | | <p>☆「だれが」「どうした」に気を付けて文章を読んでいる。 【言】(発言ワークシート)</p> |
| | <p>○ねずみの学校の子ねずみたちの様子を読み取り、場面の様子を想像し、想像したことを音読で表現する。</p> | <p>●◆教材文に書き込みをさせ(一人読み)、じっくりと教材文に向かう時間をとる。 ●会話文に着目し、子ねずみの気持ちを想像させる。(全体)</p> | <p>☆ねことねずみの関係を確認し、先生の話を聞いていない子ねずみたちの様子を読み取っている【読】(発言・ワークシート)</p> |
| | <p>○子ねずみを威嚇しようとするねこと、全く怖がらない子ねずみたちの様子を読み取り、それぞれの気持ちを想像して音読で表現する。</p> | <p>●一人読みをした後、会話文を中心に登場人物の気持ちや様子を想像し音読で表現させる。(グループ) ●「ニャーゴ」というねこの言葉の意味を考えさせ、気持ちを込めて音読したり、別の言葉に言い換えたりさせる。(全体)</p> | <p>☆子ねずみたちの無邪気さに戸惑うねこの気持ちと子ねずみたちを食べようとするねこのたくらみを読み取っている。 【読】(音読・発言・ワークシート)</p> |
| | <p>○食べる桃の量を調節してまで子ねずみたちを食べようとしているねこの気持ちを想像して音読で表現する。</p> | <p>●ねこの気持ちが想像できない児童には、心内語を繰り返し音読させたり、友達の音読を聞いたりさせる。(一人読み) ●一人読みをした後、会話文を中心に登場人物の気持ちや様子を想像し音読で表現させる。(グループ) ●「ひひひひ。」に込められたねこの気持ちを考え、音読にいかせるようにさせる。(全体)</p> | <p>☆ねこと子ねずみたちの様子を読み取り、それぞれの気持ちを想像している。 【読】(音読・発言・ワークシート)</p> |

| | | | |
|------------------------|--|--|---|
| | ○子ねずみたちから桃をもらって大きなためいきをつくねこの気持ちを想像して音読で表現する。 | ●一人読みをした後、会話を中心に登場人物の気持ちや様子を想像し音読で表現させる。(グループ) ●「ニャーゴ」と言ったねこの気持ち、子ねずみたちが言った「ニャーゴ」の意味を考え、そのときの気持ちを想像させる。(全体) | ☆子ねずみを食べようとしていたねこと無邪気な子ねずみの様子を読み取り、ねこの気持ちを想像している。【読】(音読・発言・ワークシート) |
| | ○子ねずみたちを食べずに別れていったねこの気持ちの変化を想像して音読で表現する。 | ●一人読みをした後、会話を中心に登場人物の気持ちや様子を想像し音読で表現させる。(グループ) ●最後にねこが言った「ニャーゴ」に着目し、どんな意味だったのか考えさせる。(全体) | ☆子ねずみを食べずに帰っていくねこの様子や気持ちを読み取っている。【読】(音読・発言・ワークシート) |
| | ○グッときたところ(場面)を見付け、様子や気持ちを豊かに想像しながら、音読する。 | ●学習のまとめとしてグループごとにグッときたところ(場面)を音読させる。(グループ→全体) | ☆場面の様子について、人物の行動を中心に想像を広げながら読んでいる。【読】(音読) ☆物語の中の言葉をもとに、思い浮かべた人物の様子を音読で表現している。 【読】(音読) |
| 三次 5時間 本時 3/5 | ○紹介してもらった幼年文学の本からグループでお気に入りの1冊を選ぶ。 | ●◆◇並行読書で読んでいた本の中から選ぶようにさせる。選んだわけも考えさせる。 | ☆物語文に興味関心をもち、進んで音読しようとしている。 【関】(音読) |
| | ○グループでグッときたところを相談して決め、その場面の様子や人物の気持ちを考える。 | ●◆◇人物の気持ちや様子について話し合い、読み方を工夫させる。(一人読み→グループ) | ☆場面の様子について、人物の行動を中心に想像を広げながら読んでいる。【読】(音読) |
| | ○グループで人物の気持ちや様子について話し合い、音読の仕方を工夫する。※本時 | | ☆物語の中の言葉をもとに、思い浮かべた人物の様子を音読 |

| | | | |
|----|---|---|---------------------|
| | ○他のグループの音読を聞いて、アドバイスし合い、人物の気持ちや様子がより分かりやすい音読をめざす。 | ●◆学級内での発表の時には、選んだお話の大体のあらすじや工夫ポイントを伝えるようにする。どんなお話なのか質問をしたり、工夫した読み方から分かることを伝えたりし、活発に交流させる。 | で表現している。 【読】(音読) |
| | ○学級内で発表し合い、工夫した読み方を評価し合う。 | | |
| 課外 | ○全校のみんなに伝えよう。 (ドキドキ集会) 『きいてきいて、グッときたところ！わたしたちのおすすめ本をしょうかいします』 | | |

7 単元構成モデル

・表現 音読発表



8 本時の学習

(1) ねらい

○人物の様子や気持ちが伝わるように読み方を工夫し、音読することができる。

【読むこと】

(2) 展開

| <p>主な学習活動 予想される児童の反応（・）</p> | <p>教師の支援（●担任◆司書教諭◇学校司書） と評価（☆）</p> |
|--|--|
| <p>1.本時のめあて確認する。</p> | |
| <p>どのような読み方をしたら様子や気持ちが伝わるか、考えて音読しよう。</p> | |
| <p>2.一人読みで書き込んだワークシートをもとに、どんな読み方がよいのかグループで話し合い、音読の練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・～は、～だから大きな声で読んでみようかな。 ・～は、～だからゆっくり読むといいかな。 ・～は、間をあけて読むといいかな。 | <ul style="list-style-type: none"> ●◆本時まで一人読みで書き込んだワークシートの内容を把握しておく。文章の読み取りができていない児童には、一緒に読みながら内容把握に努め、書き込ませておく。 ●話し合うグループは、話し合いがスムーズに進むようなメンバー構成を前もって考えておく。 ●グループに1枚ワークシートを用意しておく。効果的な読み方や気持ちなど話し合ったことを書き込み、グループで共通理解できるようにしておく。 ●◆困っているグループには、指導者の作ったモデルや「ニャーゴ」で書き込んだことを参考にさせ、声の大きさや読む速さなど、どんな声で読んだら登場人物の気持ちが伝わるか尋ねながら支援する。 ●◆話し合ったことをもとに、グループ内で音読させてみる。 <p>☆想像した人物の気持ちや場面の様子が伝わるように工夫して音読している。【読】（音読・行動観察）</p> |
| <p>3.他のグループに聞いてもらい、アドバイスをもらおう。（1グループのみの発表、その他は次時）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・～のところは～ということだから、もう少しゆっくり読んだほうがいいんじゃないかな。 ・～さんの読み方は、本当に、登場人物がお話しているみたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ●音読がしやすいよう、気持ちや読み方を書き込んだグループのワークシートをコピーし、発表グループの児童一人一人に渡す。 ●聞き手に分かりやすいよう、この本を選んだわけ、簡単なあらすじ、グループで考えた工夫ポイントを伝えるようにする。 ●読み間違いを指摘するのではなく、人物の気持ちが表れる音読の仕方に焦点をあててアドバイスさせる。 ●アドバイスだけでなく、よいところも伝わる |

| | |
|--|--|
| <p>4.今日の学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・～さんから教えてもらい、～な声で読むようにしたら、主人公の気持ちが分かるようになりました。 ・～さんからのアドバイスで、～のように読み方を変えたら、とてもよくなりました。 ・～さんがアドバイスしたことで○班の読み方がかわり、気持ちがすごく伝わるようになりました。 | <p>ようにさせ、音読することへの楽しさが感じられるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●友達からのアドバイスを受け、その場で直し音読するようにさせ、学級全体で学習の深まりを感じさせるようにする。 ●友達との関わりで自分がのびたところ、かわったところに気付くようにさせる。 |
|--|--|

(3) 本時の評価

| A 十分に満足できると判断される児童の具体例 | B おおむね満足できると判断される児童の具体例 | →支援を必要とする児童への指導の手立て |
|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・理由を付けて、読み方の工夫を考え、人物の様子や気持ちを音読で表現することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・読み方を工夫し、人物の様子や気持ちを音読で表現することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・人物の様子や気持ちが読み取れない→グループの友達の意見を聞いて音読に生かすことができるよう、グループ内での話合いの時に助言する。 |

(4) 研究の視点

- ・一人読みのワークシートをもとにグループで読み方を考える活動は、人物の様子や気持ちを読み取り、音読で表現する活動に有効であったか。
- ・選んだ幼年文学の本は、本学級の児童に適切であったか。
- ・担任、司書教諭のグループへの関わり方は適切であったか。

9 ブックリスト（本単元では、1～7を使用。8～16は、検討した図書）

| | 書名 | 作者 | 出版社 | 備考 |
|----|------------------|----------------|--------|----|
| 1 | 番ねずみのヤカちゃん | リチャード・ウイルバー | 福音館書店 | |
| 2 | へんてこもりにいこうよ | たかどのほうこ | 偕成社 | |
| 3 | えっちゃんの森 | あまんきみこ | フレーベル館 | |
| 4 | おとうとねずみチロのはなし | 森山 京 | 講談社 | |
| 5 | もりのへなそうる | 渡辺 茂男 | 福音館書店 | |
| 6 | しょうぼうしょは大いそがし | ハネス・ヒュットナー | 徳間書店 | |
| 7 | なぞなぞのすきな女の子 | 松岡 享子 | 学研 | |
| 8 | たんたのたんてい | 中川李枝子 | 学研 | |
| 9 | けんた・うさぎ | 中川李枝子 | のら書店 | |
| 10 | ふらいばんじいさん | 神沢 利子 | あかね書房 | |
| 11 | あたまをつかった小さなおばあさん | H・ニューウェル | 福音館書店 | |
| 12 | みしのたくかにと | 松岡 享子 | こぐま社 | |
| 13 | なんでもただ会社 | ニコラ・ド・イルジング | 日本標準 | |
| 14 | エルマーのぼうけん | ルース・スタイルス・ガネット | 福音館書店 | |
| 15 | くまの子ウーフ | 神沢 利子 | ポプラ社 | |
| 16 | ぼくは王さま | 寺村 輝夫 | 理論社 | |

10. 研究協議の概要

| 参加者 | 校内 13名、校外 13名 | 計 26名 |
|-------------|---|-------|
| 授業及び研究協議の概要 | <p>人物の行動や様子を豊かに想像しながら読み取る能力を育てることをねらいとし、人物の様子を思い浮かべて音読で表現する学習を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本からの移行期であるこの時期に幼年文学の本を取り上げたことは今後、中学年以降の読書へつなぐには有効であった。 ・「一人読み」の時間が大切である。読み取りの難しい児童も自分なりのこだわりをもって、学習の流れの中でイメージして読み取ることができていた。 ・本文の中から様子を表す言葉を見つけ、その言葉通りに音読で表現することは難しかった。相互評価をし、児童同士でさらによいものにしていこうとすることが大切である。 | |